

1. 科目名(単位数)	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）（2単位）	3. 科目番号	SBMP2155
2. 授業担当教員	柘植 将介		SSMP2155
4. 授業形態	講義、グループディスカッション・作業及び発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	ソーシャルワークの理論と方法		
7. 講義概要	社会福祉士の職域、福祉行政等における専門職、また民間の施設・組織における専門職等、ソーシャルワークにおける専門職の概念と範囲について諸外国の動向も踏まえ理解を深める。加えて、ソーシャルワークにおけるミクロ・メゾ・マクロレベルの対象、それぞれのレベルにおける支援の実際と相互の連関性を学ぶ。ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援と多職種連携、チームアプローチの意義と内容について理解する。		
8. 学習目標	社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	レポート課題.メゾ・ミクロ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開についてまとめなさい。		
10. 教科書・参考書・教材	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]』中央法規出版,2021 年 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。 東京福祉大学編『教職科目要説（初等教育編）』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『教職科目要説（中等教育編）』ミネルヴァ書房。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1.受講態度・参加姿勢 40%（全授業の3/4以上の出席が必要）遅刻（10分程度迄）は3回で1回休みとなる。 2.筆記試験とレポート試験を行う。60% ○評定の方法 1.ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 2.ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 3.総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。		
12. 受講生へのメッセージ	毎回の授業時、基本用語等について説明・質問をするので、事前・事後の学習を必ず行っておくこと。 1. 指定の教科書は授業の際、必ず持参してくること。 2. 別途配布する資料は、正しく整理して必ず保管しておくこと。 3. 授業中の私語や携帯電話の使用は禁止する。 4. 授業ごとに行うコメントカード等の提出での出席確認も行うため、必ず提出すること。 5. 授業の参加態度以外にも、コメントカード等の提出をもって受講態度・参加姿勢の評価とする。 6. 希望者には授業内容に該当する国家試験の過去問を配布する。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション：シラバス、講義概要、試験・レポートについての説明及び「ソーシャルワークの基盤と専門職」での学習の振り返り	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」のねらいについて講義用ノートにまとめる。
第2回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（1）：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲について学ぶ	事前学習	テキスト pp.206～218 を熟読し、重要である点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法について学習内容をまとめる。
第3回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（2）：社会福祉士の職域と役割について学ぶ	事前学習	テキスト pp.219～226 を熟読し、重要である点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	社会福祉士および精神保健福祉士の専門性についてノートにまとめ説明できるようにする。
第4回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（3）：多様な組織・機関・団体における専門職について学ぶ	事前学習	テキスト pp.227～234 を熟読し、重要である点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	社会福祉士および精神保健福祉士に求められるコンピテンシーについてまとめる。
第5回	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲（4）：諸外国の動向について学ぶ	事前学習	テキスト pp.235～244 を熟読し、重要である点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	ソーシャルワークの定義について学習内容をまとめる。
第6回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク（1）：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象について学ぶ	事前学習	テキスト pp.246～254 を熟読し、重要である点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	ソーシャルワークの構成要素について学習内容をまとめる。

第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (2) : ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について学ぶ① (グローバル定義と実践の展開、介入の考え方)	事前学習	テキスト pp.255～258 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	社会正義、人権尊重と権利擁護、集団的責任 と多様性の尊重について要点をまとめる。
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク (3) : ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開について学ぶ② (ミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践の展開と考え方)	事前学習	テキスト pp.258～267 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援について要点をまとめる。
第9回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (1) : 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について学ぶ① (ジェネラリストの視点について)	事前学習	テキスト pp.270～276 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて要点をまとめる。
第10回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (2) : 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点について学ぶ② (実践活動と事例の検討)	事前学習	テキスト pp.270～276 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	ソーシャルワークの形成過程において、基礎確立期、発展期について要点をまとめる。
第11回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (3) : ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について学ぶ① (多機関・多職種連携・協働による包括的支援体制の構築)	事前学習	テキスト pp.277～281 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	ソーシャルワークの形成過程において、日本のソーシャルワークの形成過程について要点をまとめる。
第12回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (4) : ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容について学ぶ② (社会資源の活用、ソーシャルサポートネットワーク)	事前学習	テキスト pp.281～287 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	専門職の概念について要点をまとめる。
第13回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (5) : 多職種連携及びチームアプローチの意義と内容について学ぶ① (多職種連携とチームアプローチの意義)	事前学習	テキスト pp.289～302 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	倫理綱領を読み返し、その実践と課題について要点をまとめる。
第14回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 (6) : 多職種連携及びチームアプローチの意義と内容について学ぶ② (機関・団体間の合意形成の促進とクライアントとの連携・協働)	事前学習	テキスト pp.289～302 を熟読し、重要であると考える点、不明な点をノートにまとめる。
		事後学習	倫理綱領と実践上のジレンマについて要点及び自身の考察をまとめる。
第15回	まとめ : これまでの学習を振り返りその内容を確認、今後の自己課題を明確にする。	事前学習	これまでの学習を振り返り、疑問点を箇条書きにする。
		事後学習	学期末試験に向け、資料の整理と学習内容の確認を行う。
期末試験			